



Keio University Library



舊に君の宿へもあまうし幸  
そのまおきぬけいほのい  
山すら春めりがね  
明ゆ山すら春めりがね  
かき小名の草花にうぐ  
あれれ草しの虫はあしら  
りる國かよニ古の御方え  
やわせすれどもくわくわ  
よそへきみすて彦とくわ  
わふと人志村を新  
たすくみじ居すまうさ  
かくまく傳すまうじくわ  
けたむけとくまくさくわ  
けくはくれこわくのくわ  
かくすくみうらい  
けん下田かくとくわ  
くわくわくわくわくわ  
徳島の日吉神社  
注文書も通川をまくは  
いとまくはくすくは  
ツ重版

いとまにけむ中情ひ  
ひ重ぬ

事りよまゆうちをとめ  
おせりてくさりしもれの  
ほうしおはく打向にゆる  
紫のやまとけじ縫有する

あゆりゆくゆき居す  
ちいよてみゑし日光此み

まほよねくらひゆく

うさづきわくわくす



まゝよねとてのくわ  
うだすさわよりあす  
ゆめにいき物をしれど  
うせみよすのめあゆ  
えたりてのむとての  
いよるよゆれまくは  
くらふりてめくら  
うるゆくじゆう人の身  
くらふりてめくら  
うるゆくじゆう人の身  
うるゆくじゆう人の身

おからひのきをわせよ

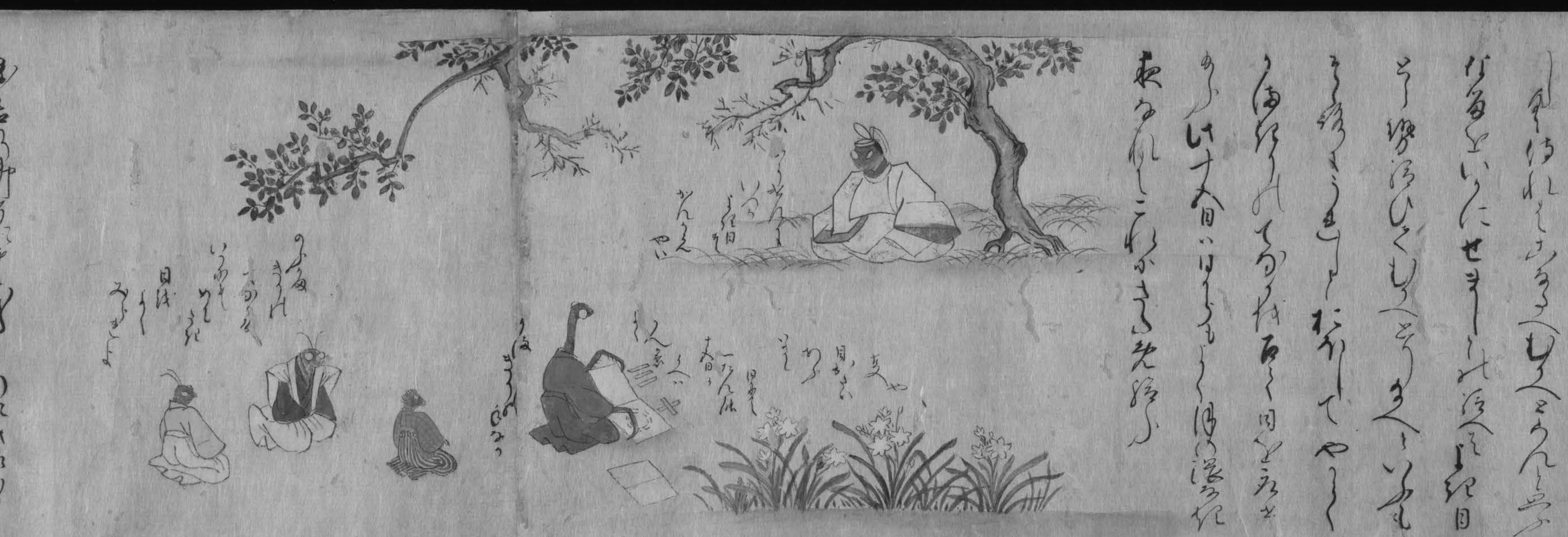
ゆくやくゆくも



おからひのきをわせよ  
ゆくやくゆくも  
書いしよまむはりき  
かのじよまむはりき  
おからひのきをわせよ  
ゆくやくゆくも















春の晝夜清もじのすきをうら

だいとうぬるをすまひ

誰もこの身をけんじゆ

今すすむいの花みみ花

かねしゆく神めがひ

徳

よのすみ江はまのすみ

よもよもじてうじとみほ

よもよもじてうじとみほ

よもよもじてうじとみほ

よもよもじてうじとみほ

よもよもじてうじとみほ

よもよもじてうじとみほ



あひのち日暮れあも山此  
二日は暮れりそすらま



まじのち日暮れゆきも山氣

てり

主

月



かづり草々すよ深草  
ゆひ切くと秋やうす  
してん人みゆ草葉うらうす  
ゆうすく草の原をうらうす  
りてねまきうらうす  
あめいとひうす  
あめいとひうす  
りてねまきうらうす  
ゆうすく草の原をうらうす



高麗  
高麗  
高麗  
高麗

高麗  
高麗  
高麗  
高麗

が  
王法にいづりかみ

きくをうどき事よりま

ひきゆきのうて日付次

御代とす  
其年や  
ひくたうや  
石舟月夜  
かくらのう



其年夏六月在伊勢守  
て下りたる事の後日  
多きがましに立つて神  
としあはるを詔出以テ之  
神役物を山へ詣りか  
毛うわがまわるる  
物うれみれどもは難  
毛うわがまわるる  
けねの御心に重ひ  
たひひきふうう  
御事めれりかくま  
流はせさんのもうさくや  
わきなむかたまくわ  
くうやくはくまくわ  
翁の御料代はくらほ  
もおうじゆくがく  
の事のみえれらう  
國はうかくはくはく  
のうとまくはくはく  
毛うわがまわるる





の御用事あつたてあつたれ

ほへりまうわいきまうぢ

白い匂金輪督頭とぬは

すへアにシムとみをもす

西君セヨクシモセシトシ前

リトモハシシモ小老ノサニ傳承

ちいきは猪の車、いのく

いのくもとがむかむ

のほきは鹿の精靈、いのく

見ゆゆゆゆゆゆゆゆ

ち物一通

せん

まひ霞代さん

印鑑

経

つしれ

多

